

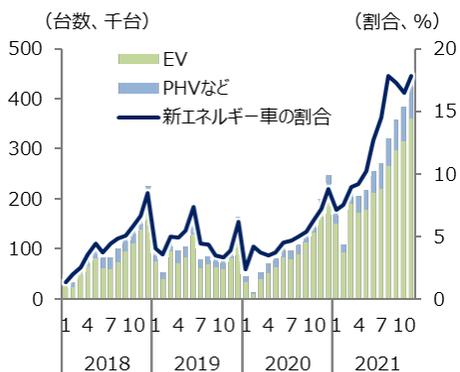
中国

EV化とグリーンフレーション

世界最大の市場で高まるEVシェア、グリーンフレーションの火種に

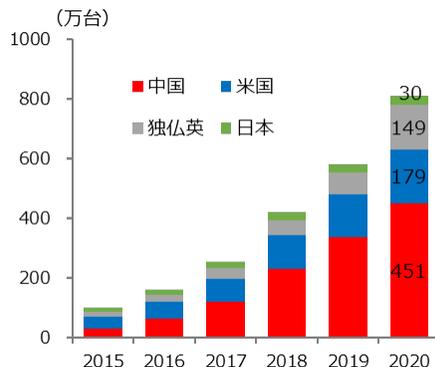
政策・経済センター
金成大介
03-6858-2717

1 新エネルギー車販売



注：新エネルギー車は、EV（電気自動車）、PHV（ハイブリッド車）など中国政府が普及を促す、非従来型の動力源をもつ自動車の総称。直近は21年11月。
出所：Windより三菱総合研究所作成

2 主な国のEV車の登録台数



出所：IEA「Global EV Data Explorer」より、三菱総合研究所作成

評価ポイント

今回の結果

- 中国の11月の自動車販売は、前年同月比▲9.1%と7か月連続で前年実績を下回った。一方で、11月の新エネルギー車販売は、EV（電気自動車）販売を原動力に好調に推移し、自動車販売全体の18%となる45万台にまで拡大している（図表1）。

今後の注目点

- 先般、中国汽车工業会が、2022年の新車販売台数を2021年着地見込み比5%増の2750万台、新エネルギー車の新車販売台数を2021年着地見込みの約1.5倍の500万台となる予測を公表した。
- 2020年時点の中国のEV登録台数は、欧米を大きく上回る水準にあり（図表2）、消費者へ相応に浸透している。11月の販売実績が続けば年間500万台超となること、中国では運転免許保持者数、自動車登録数ともに拡大局面にあること（図表3）から、上記の新エネルギー車販売予測の実現性は高い。
- 中国政府は、2025年の国内の新車販売台数に占める「新エネルギー車」の比率を20%前後に高める目標を打ち出している。上記予測が実現した場合、中国政府目標よりも3年前倒しでの概ね目標達成となる。
- こういった状況下、EVの蓄電池に使う炭酸リチウム、コバルトといったバッテリーメタル価格が上昇基調を強めている（図表4）。中国以外でも、欧州が2035年までのエンジン車の販売禁止法案を準備、トヨタがEVへの4兆円規模の投資方針を公表するなどEV市場の拡大が予想され、バッテリーメタルの需要増が見込まれる。
- 脱炭素を展望した化石エネルギーの供給不足によるエネルギー価格上昇を受け、「グリーン」と「インフレーション」を掛け合わせた「グリーンフレーション」という造語が市場で取り上げられるようになってきている。エネルギー価格に加えて、中国を始めとしたEVシフトによるバッテリーメタル価格上昇が、「グリーンフレーション」の火種となるリスクに留意が必要だ。

3 運転免許保持者数と自動車登録数



出所：Windより三菱総合研究所作成

4 バッテリーメタル価格



注：中国市場での取引価格の月次平均。12月は17日時点の平均。
出所：Bloombergより三菱総合研究所作成